

81.3.10

No. 686

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六(公衆)電話五七二〇七

3月大ストライキ貫徹の意義をうち固め 反弹圧・反処分、81春闘勝利へ!

三里塚・ジェット闘争貫徹 / 「国鉄35万人体制」粉碎

あらゆる弾圧、スト破り、組織破壊攻撃を敢然と打ち破り、三月大ストライキを貫徹した全組合員の皆さん、
そして、スト支援・防犯に不眠不休で決起された反対同盟を先頭とする全国の支援共闘の皆さん、

勤労千葉闘争委員会は、歴史的三月ジェット闘争が獲得した偉大な成果を確認し、さらに、オニ、オニの三月ジェット闘争に決起する決意を胸に秘めつつ、三月ジェット闘争を実現した全ての組合員・家族の奮闘と、共に決起された反対同盟、支援共闘の皆さんに心から敬意を表します。

三月大ストライキがかちとった階級的意義

オーに 日本労働運動が右翼的労戦統一に雪崩をうって進行しつつある中、賃上げ闘争はもとより反合闘争すら放棄しひたすら戦争への道に協力せんとする既成労働運動の存をのりこえ、労働者、労働組合の真の任務である、労働連帯、政治ストを千三百名組合員がうちぬいたことである。

そして、千三百名組合員が、労働者の怒りをもって正義の闘いに立ち上ったとき、いかなる力を發揮するのかを反動どもに見せつけ驚かすせしめ、全国で苦闘する労働者人民にやれば勝てるという自信を与えたのである。

実際、われわれが闘った三月ジェット闘争の階級的意義とどの打撃力に恐怖した政府・権力・当局の反動は「勤労千葉を嚴重に処分せよ」(塩川運輸大臣談「労組の限界を超えた千葉勤労」(三月六日読売新聞社説)等と弾圧・処分と反動的悪ばを投げかけ反勤労千葉キャンペーンをくり広げている。読売新聞が「社会の木鐸である」と自負するならば、政府自

民党の「イデオロギー過多」にならずに「密議決定を反古にした」政府の責任を追及すべきであるし、二月二一日、乗務中の大須賀枝樹士を「運転室の窓ガラスをハンマーで叩き割ってでもひきずり降せ」と指示し公安隊を運転室に入らせさせた国鉄当局の暴挙を糾弾すべきである。しかし現更は、勤労千葉の正義の闘い

が、全国の闘う労働者人民に限りない共感をもつて迎えられる、カンパ、激励が続々と集中され「勤労千葉の闘いに続け」と、ほうはいとして湧きだしている。それは全国の勤労内にあっても例外ではないのだ。

オニに 三月ジェット闘争は、①労働連帯の大義を堅持・発展させる闘いであり、②日本労働運動はかんづく国鉄労働運動の戦術的再生、③国鉄35万人体制合理化粉碎を希求する闘いであり、④勤労「本部」反動分子と結託した国鉄当局「反動派」労政を打倒する闘いであった。

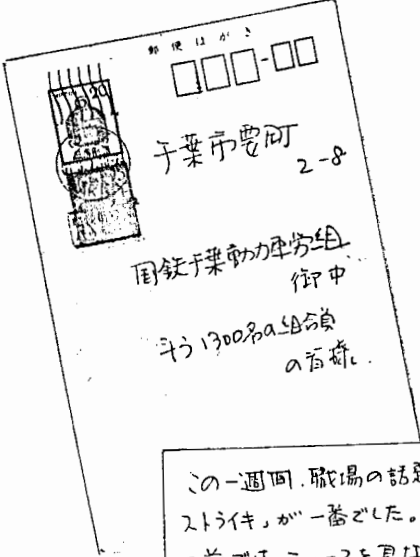
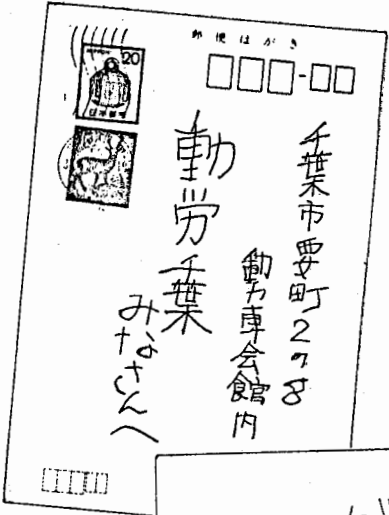
われわれは、この三つの視点をもって闘いぬき、三・六総武線を中心とする首都圏を揺がす大ストライキを実現した。闘いの成果は、「本部」反動分子によるスト破り、裏切り行為、無意味なスト等という権力・当局一体となった反動攻撃を許さず、労働連帯をより強固にした。さらに三月四日、スト破り助役枝樹士導入に抗議した勤労千葉の仲間の決起を現出せしめ、列車掛乗務拒否闘争として貫徹された。

かくして勤労千葉千三百名組合員・家族の闘いは、三里塚闘争勝利、右傾化産報化へ進まんとする日本労働運動の流れをおしとどめダイナミックな戦術的転換の契機をつくりだしたのである。

全組合員のみならず今後想定される弾圧・処分、「本部」スト破り集団の組織破壊を許さず、三月ジェット闘争の成果をうち固め、より強化・拡大した組織体制を構築しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!

全国から寄せられた激励



がんばって
ください。

この一週間の職場の話題は「千葉のストライキ」が一番でした。昼休みのT.Vの前では、ニュースを見ながら「勤労千葉はスゴイ」「ほんたう勤労はスト破りをしていふが」、「この日にスッカリストライキはない」ほいほいぞ、否定的な声は一つもありません。

全面ストを打った6日、斗争の可憐さに感激すると同時に、必ずくる処分攻撃と組合破壊攻撃を思う。「斗争はこれからなんだ!」「勤労千葉を全力で守らなければ!」と強く感じます。

職場の中で皆この斗争を支援する輪を作りあげ、そして皆この斗争に続いていくことを強く感じます。

勤労千葉の歴史的な労働連帯ストを断固支持します。このストの中にこそ斗争労働者の未来を感じられます。首謀の斗争を期待し、信頼します。がんばって下さい。